



2021年 1月13日
第80号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



横浜地本



2021年新春旗開き開催

1月9日かながわ労働プラザにおいて、横浜地本2021年新春旗開きを開催しました。感染症対策のため、参加人数の制限や開催時間の短縮、検温、消毒の実施などを行っての開催となりました。



本部より高橋執行副委員長にお越しいただき、私たちがどのように21春闘に向かっていくのか、職場討議資料を使いながら、「春闘とは何か」や「ベースアップと期末手当の違い」をわかりやすく問題提起していただきました。今後、職場討議資料を各職場で活用し組織力を高め、私たちの雇用と生活を守るために全組合員でJR総連春闘をたたかい抜きましょう。

各支部からは、新たな年を迎えさらに新生JR東労組運動を前進させていく決意が表明されました。

【決意表明要旨】

- 組合員の声をもとに、組合員に寄り添った取り組みをつくってきた。組合員と情報共有し、組織議論により問題が解決できるということを学んだ。組織議論をする体質づくりをし、春のたたかいをつくり出していく。
- コロナ禍でもリモートなどを活用しながら執行委員会の定例開催、歓迎会の開催、全員にあたりきるといふことにこだわり運動を進めてきた。一人の組合員も置き去りにせず、2021年も胸を張って、心を燃やし、私は私の責務を全うすることを決意する。
- 「雇用と賃金、安全・健康・働きやすさ」を守っていけるのは東労組だけだ。いま組合員は集まり議論する場を求めている。感染症対策を行いながら組合員が集まる場づくりを行う1年としていく。
- 赤字経営の中で「自分がなぜ東労組に所属しているのか」を明確にすることは重要だ。変化点、過渡期といえる今、時代認識を様々当てはめながら、課題に対して組合員との議論をもとに取り組みづくりを行っていく。

